

令和7年度「地域と学校の連携・協働体制構築事業」実績報告関係様式

都道府県名	01_北海道
市区町村名	01235石狩市
自治体区分	都道府県

●R7年度に本事業で重点的に取り組む課題に応じた目標等の設定様式

実施自治体名	課題の類型1	課題の類型2	背景・現状・課題の詳細	左記課題の解決のために令和7年度に実施する具体的な取組	左記具体的な取組のうち、令和6年度における取組の評価・分析を踏まえた取組	本事業で達成する目標（アウトカム）	目標の達成度を測る指標	現状の数値	単位	本年度の目標値	本年度の実績値	アウトカムの達成度に関する評価・分析（事業における成果、課題、改善点等）	目標等の公表先
012351_石狩市	②学校と地域の課題	03 学校支援ボランティアの確保・育成	関係機関が連携を図り、様々な知識や経験・特技のある地域住民がかかわり子どもたちへ体験活動の提供や授業のサポート等を実施しているが、ボランティアが高齢化し、新規のボランティア確保が難しい。	地域コーディネーター同士で連絡を取り合い、他地域にいるボランティアを紹介し合える情報交換を行ったほか、他事業でも活動の紹介を行い、「なにかやってみたい」気持ちを逃さないように努めた。また、地域ボランティアだけでは不足する部分を、学校から保護者等へ連絡してもらうことで必要数を確保するなど柔軟に対応した。	地域コーディネーターも迷いながら学校と地域をつなぐ活動をしてきたが、学校との関係が構築されてきたことで、意見を伝えることができるようになってきたのではないかと。また、地域コーディネーター同士でも連絡をとりあうようになり、お互いの得意分野を理解した上で協力できるようになってきている。	学校と地域が活動を通じてお互いを理解することで、共に子どもの成長を見守ろうとする意識が高まり、より積極的にかかわろうとする思いが生じる。そう感じる人が増えることで、地域ぐるみで子どもを見守る雰囲気が向上する。	市内各学校の地域学校協働活動件数	81	件	82	84	ボランティア数がある程度維持できたため、前年より活動件数が増加したと思われる。地域コーディネーターの活躍により確保できたことが大きいと、学校も地域とともに子どもの成長を促すという意識が強くなってきたため、校内に地域の人が入ることへの抵抗感が薄れてきたのではないかと。この関係性を大切にしながら、現状維持だけでなく新規ボランティアの発掘に視点をおく必要がある。	https://www.city.ishikari.hokkaido.jp/bunka/shogai/1003485.html